

令和6年度

小学校家庭科部会県大会（安中地区研修会）について

I はじめに

安中市の小学校家庭科主任会では、県の小学校家庭科部会の取組を受け「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する」家庭科の授業の充実を目指し、進んで研修に参加するなどの自己研修に努めることと、部員間での情報交換を積極的に図ることを活動の重点としている。

小学校家庭科部会では地区大会を持ち回りして毎年、県大会を実施している。西毛地区の大会としては令和4年に富岡地区で関ブロ小学校家庭科研究大会群馬県大会と合わせて領域B「衣食住の生活」で2つの授業実践が発表された。今年度からは各地区の実情に合わせて大会の持ち方を考えることとなった。安中地区は昨年度より理事会で検討した結果、夏季休業中に中里真一県指導主事を講師にお招きして小家研安中地区研修会を実施し、家庭科の授業づくりについてご指導いただいたことを活かした授業実践をすることを小学校家庭科部会県大会とすることとした。

II 小家研安中地区研修会

日時：令和6年8月9日（金）10：00～11：30

会場：安中市立安中小学校

内容：家庭科の授業づくりについて

講師：群馬県教育委員会義務教育課教科指導係
指導主事 中里 真一氏

参加者：安中市内小中学校家庭科主任および家庭科教育に関心ある小中学校教職員等
17名

この研修会では、家庭科の学習過程を「はばたく群馬の指導プランⅡ」をもとに具体的に確認した。中里指導主事は「家庭科の学習においても題材の課題を解決するために、問題解決的な学習を【つかむ】【追究する】【まとめる】過程で構想し、児童の追究意欲や学習内容をつなげて授業をつくるのが大切である。」と説明された。児童から学習過程のキーワードを「引き出す工夫を繰り返すことで、始めは時間がかかっても、

いずれ児童が学習過程を理解して次は何をするのか主体的に考えられるようになり、教師として授業づくりが楽になるとの話であった。また、児童が主体的に課題を解決する力を育むために、自分事として課題を見いだせる授業づくりの工夫について説明があった。家庭科の学習過程では特に【つかむ】の過程が重要なことが説明された。



III 「各教科等授業改善プロジェクト」公開授業への参加

授業改善プロジェクト公開授業で家庭科は【つかむ】の過程で行われるとのことだったので、安中市の主任会として市内の家庭科主任は可能な限り参加するようにした。

IV 授業実践例

各校で【つかむ】過程の授業改善を意識した授業づくりを行い実践した。以下、原市小学校での実践を紹介する。